

第4回 大学技術職員組織研究会（琉球会議）

— 研究会の報告 —

大学技術職員組織研究会

評議員 屋比久祐盛

（琉球大学 工学部技術部）

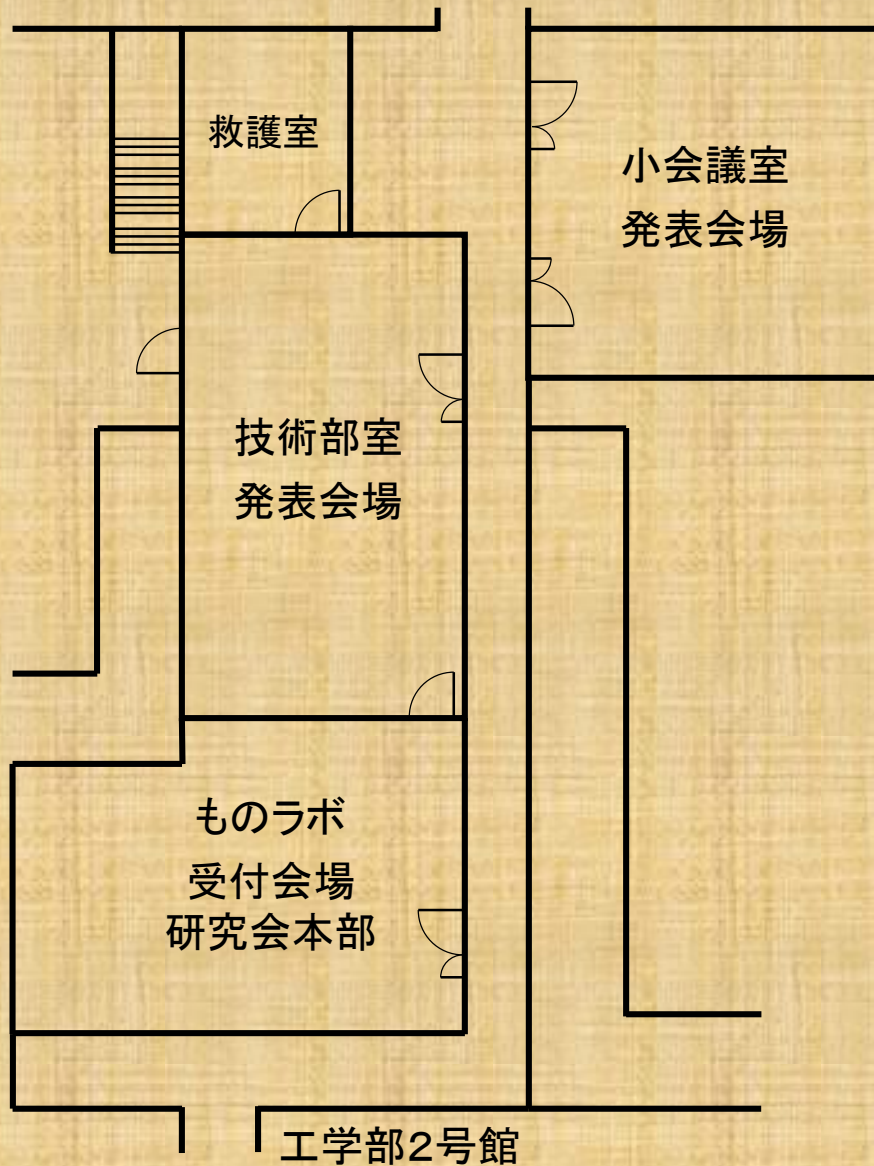
第4回 大学技術職員組織研究会(琉球会議)

研究基盤EXPO 2021

ー 開催要項とプログラム ー

| | |
|--------------------------------|---|
| 開催日程 | 受付 |
| 令和2年12月18日(金)9:55~18:00 | 9:00~ 9:55 会場:琉球大学 工学部2号館(小会議室・技術部室・ものラボ) |
| 開催場所(オンライン+現地) | 9:55~10:00 開会の挨拶 |
| (オンライン) | 琉球大学 理事 副学長 木暮 一啓 |
| ・対象者:大学技術職員組織研究会 会員 | 進行 琉球大学 屋比久祐盛 |
| ・参加:Zoomによるオンライン会議 | |
| (現地) | 10:00~10:30 中堅技術職員からの提言~組織運営について~ |
| ・対象者:演者及び研究会評議員 | 琉球大学 勢理客勝則 |
| ・参加:琉球大学 千原キャンパス | 10:30~11:00 鹿児島大学の研究支援 |
| (工学部2号館 小会議室・技術部室・ものラボ) | 鹿児島大学 尾上 昌平 |
| 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 | 11:00~11:30 東京工業大学技術部の発展的改組について |
| (コロナウイルス感染防止対策のため、隣接する部屋で分散開催) | 東京工業大学 高橋 久徳 |
| | ~オープンファシリティセンターの概要について~ |
| | 11:30~12:00「全学組織化による教育研究の強化・推進」 |
| | 熊本大学 上村 実也 |
| | 12:00~14:00 昼食タイム |
| 主催 大学技術職員組織研究会 | 14:00~15:00 特別講演「技術職員の専門職化とキャリアパス」 |
| 共催 琉球大学工学部 | 広島大学 准教授 大場 淳 |
| 後援 琉球大学後援財団 | 15:00~15:30 技術職員のキャリアパス論 |
| | ~頓挫した専門行政職俸給表適用に学ぶ~ |
| | 名古屋工業大学 玉岡 悟司 |
| 検討内容 | 15:30~16:00 鳥取大学UTA(University Technical Administrator)活動 |
| 1)技術職員の組織 | 鳥取大学 松浦 祥悟 |
| 2)技術職員のキャリアパス | 16:00~17:00 特別講演「国立大学法人の経営戦略から見た |
| 3)技術に関する情報交流 | コアファシリティのあり方とは」 |
| 4)その他 | 東京工業大学 教授 江端 新吾 |
| | 17:00~17:10 その他報告など |
| | 17:10~17:15 閉会の挨拶 |
| | 琉球大学工学部 学部長(技術部長) 和田 知久 |
| 参加定員 | 17:15~18:00 琉球大学教職員との情報交換会(対面式から → Zoomミーティングへ変更) |
| 200名(大学技術職員組織研究会の会員など) | |

第4回 大学技術職員組織研究会(琉球会議)



工学部 小会議室
上村実也(熊本大学) 江端新吾(東京工業大学) 尾上昌平(鹿児島大学)



工学部 技術部室
植草茂樹(東京工業大学) 渡邊政典(山口大学)

発表会場と研究会の様子

研究会の発表内容(テーマ:技術職員の組織とキャリアパス)

| 所属・氏名 | タイトル | 発表内容 |
|-----------------|--|--|
| 琉球大学 勢理客勝則 | 中堅技術職員からの提言 ～組織運営について～ | <input type="checkbox"/> 琉球大学、技術職員マップの紹介 <input type="checkbox"/> 中堅職員の役割 <input type="checkbox"/> 中堅職員主体の活動事例 ①ものラボ設立 ②フェイスシールド作製 ③Teamsによるコミュニティスペースの活用 |
| 鹿児島大学 尾上 昌平 | 鹿児島大学の研究支援 | <input type="checkbox"/> 鹿児島大学における技術組織 <input type="checkbox"/> 幻の技術研修会 <input type="checkbox"/> 研究基盤整備に関する新組織 <input type="checkbox"/> 研究基盤整備における変化 <input type="checkbox"/> 技術職員の教育・研究への貢献 <input type="checkbox"/> RSC(鹿児島大学 研究推進機構 研究支援センター)技術力向上への活動 |
| 東京工業大学 高橋 久徳 | 東京工業大学技術部の 発展的改組について ～オープンファシリティセン ターの概要について～ | <input type="checkbox"/> 東京工業大学技術部について <input type="checkbox"/> オープンファシリティセンターについて <input type="checkbox"/> コアファシリティ構築支援プログラムについて <input type="checkbox"/> 今後の東京工業大学技術部について |
| 熊本大学 上村 実也 | 全学組織化による教育研究 の強化・推進 | <input type="checkbox"/> 設置の目的 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> 業務概要 <input type="checkbox"/> 職員のスキル <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> ONE TEAM <input type="checkbox"/> キャリアパス |

大学技術職員組織研究会アーカイブ: <https://tosg.net/archive/>

研究会の発表内容(テーマ:技術職員の組織とキャリアパス)

| 所属・氏名 | タイトル | 発表内容 |
|--------------------|--|---|
| 広島大学 准教授 大場 淳 | 特別講演 技術職員の専門職化と キャリアパス | <input type="checkbox"/> 大学職員の専門職化 (1)日本における専門職化検討の歴史 (2)ガバナンス改革における専門職化の議論 (3)米国の大学における専門職 <input type="checkbox"/> 技術職員と専門性 <input type="checkbox"/> 職員開発とキャリアパス |
| 名古屋工業大学 玉岡 悟司 | 技術職員のキャリアパス論 ～頓挫した専門行政職 俸給表適用に学ぶ～ | <input type="checkbox"/> 歴史から学ぶⅠ ー専門行政職俸給表適用が頓挫した経緯ー <input type="checkbox"/> 歴史から学ぶⅡ ー技術専門官制度の問題点ー <input type="checkbox"/> 新しい技術職員像 ー高度専門技術職(仮称)ー <input type="checkbox"/> まとめ |
| 鳥取大学 松浦 祥悟 | 鳥取大学UTA(University Technical Administrator) 活動 | <input type="checkbox"/> 鳥取大学技術部の組織 <input type="checkbox"/> キャリアパス構想(案) <input type="checkbox"/> UTA研修概要 <input type="checkbox"/> コアファシリティ構築 <input type="checkbox"/> 遠隔システム <input type="checkbox"/> 鳥取大学技術部戦略会議 |
| 東京工業大学 教授 江端 新吾 | 特別講演 国立大学法人の経営戦略 から見たコアファシリティの あり方とは | <input type="checkbox"/> コアファシリティ構築支援事業採択の理由(ワケ) 採択機関5校の分析結果と採択のためのポイント <input type="checkbox"/> 技術職員の力を信じる ・壁を壁でなくす ・多種多様な英知を結集する ・仲間と心から楽しむ ・マインドセットを変える ・失敗を恐れるな |

大学技術職員組織研究会アーカイブ: <https://tosg.net/archive/>

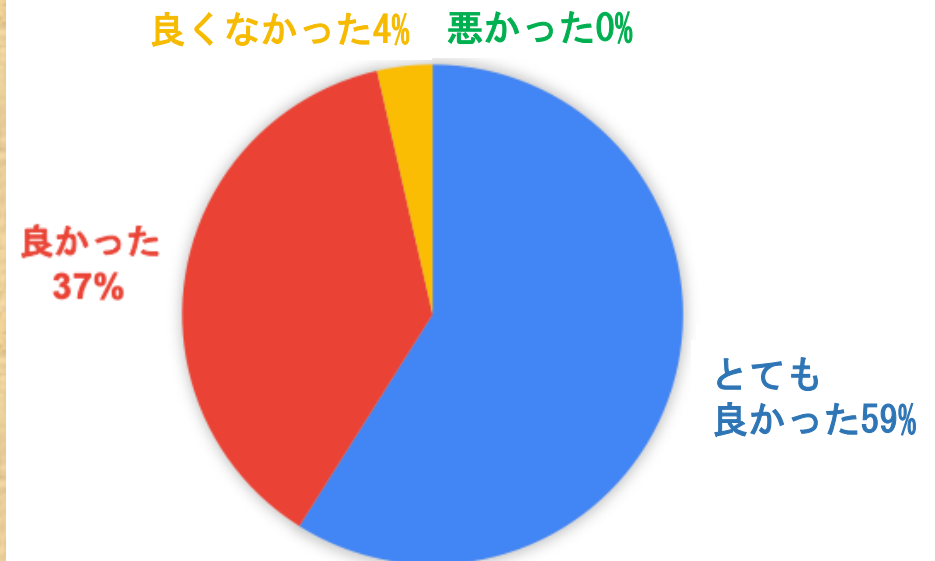
アンケート結果

回答者数 56名（登録者数は143名）

□良かった点・とても良かった点

- 他大学の情報を知れた。
- コロナ禍なので、オンライン開催が適切だと思った。
- 技術職員の現状、求められる職員像が具体的に理解できた。
- 組織化を検討する上で他大学の事例・取り組みが参考になった。
- 技術職員の努力を感じられ、今後の活躍を期待できる。
- 他大学の組織に関する情報や、コアファシリティ等が知れて有意義だった。
- 司会・進行がスムーズだった。
- 技術職員の本音が聞けた。
- Webからなので参加しやすく、出入りも気軽に良かった。
- 他大学の先輩からも話が聞ける、極めて貴重な機会となった。
- 勢理客さん発表が良く、他大学でも同様な状況が多いと思った。
- 全国の動向がまとまって聞けたので良かった。
- 様々な角度・立場からの発表で大変興味深かった。
- 中堅職員の講演が良かった。
- 鹿児島大学の事例が素晴らしかった。大場先生のお話が聞けてとても良かった
- 組織について、自分が知らないことが多いと自覚できた。
- 東工大、江端先生のお話が良かった。
- 活発な意見のやり取りが行われていた。

研究会の感想



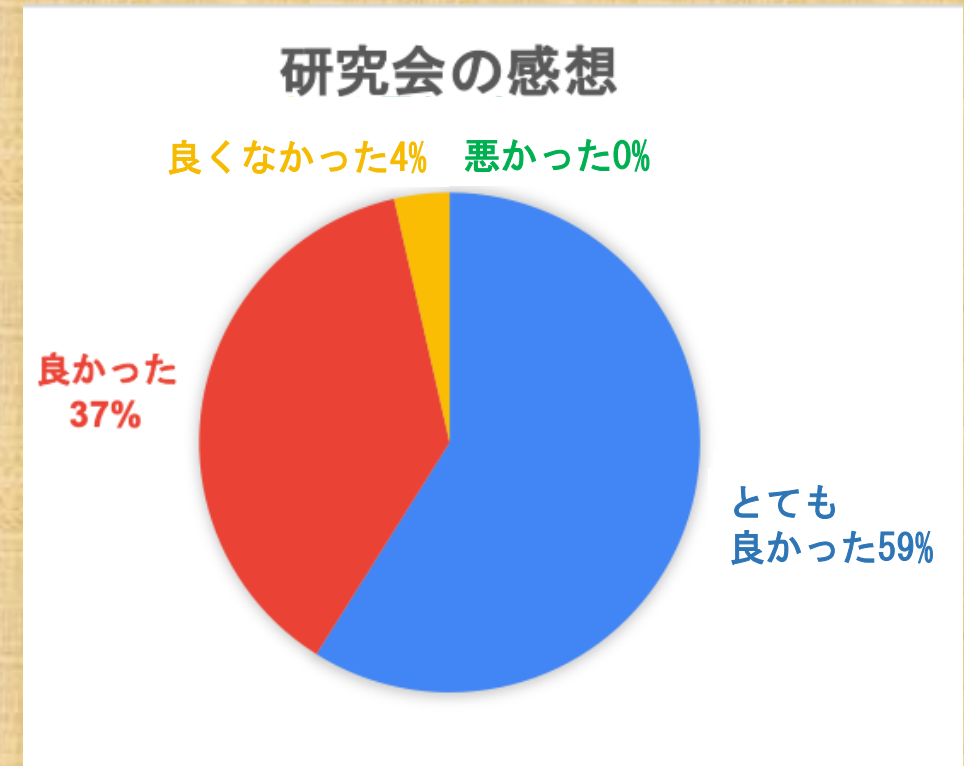
アンケート結果

□改善点

- 配布資料が欲しかった。
- 参加者が非常に多く、質問時間が限られていたため、質問しにくかった。
- 全体ディスカッションの時間が欲しかった。
- オンラインの参加者は懇親会がなかったため、人事交流が出来なかった。
- 現地の臨場感が少し欲しかった。
- 将来(10年後)の技術職員像などを議論したかった。
- 交流会の開催時刻がわからなかった。
- 小グループミーティング等でより話しやすい場所がほしかった。
- 国の政策に声を届けていることを全面に出し、理事・財務・人事等にも開催事項が届くと良いと思った。
- リモートでの音声あまり良くなかった。
- 今回も配慮が見られたが、発表者の年齢層を偏らせないよう、幅広い世代の意見が聞きたい。
- URLの案内で時間がかかった。
- 仕方ないことだが、Webだと表情や反応が見えにくいので、直接参加がしたかった。

□良くなかった点

- 内容に興味あまり持てなかった。

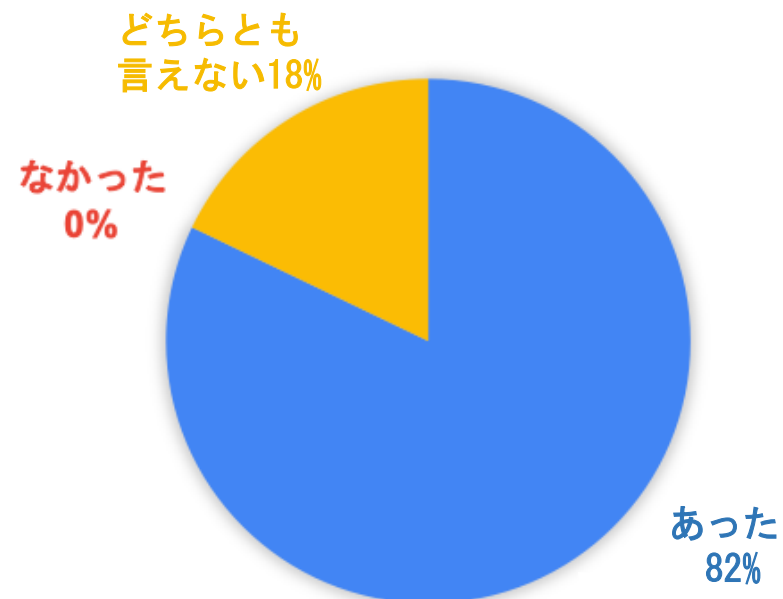


アンケート結果

□得られた情報の内容

他大学の技術職員の活動・待遇改善・組織についての情報。
 組織の改革が進んでいる大学からの情報。
 管理職手当の額、各大学の技術部としての取り組み・あり方・進むべき道。
 全学組織化への取り組み。
 技術職員の活躍が、大学運営へもっと大きな力で貢献できること。
 東工大や熊大の組織に関する情報。
 今後の技術職員のあり方に対する様々な考え方、プロジェクト等の作成における考え方。
 コアファシリティにおいて技術職員が注目されていること。
 他大学ではコアファシリティの原案に技術職員が携わっているケースがあること。
 技術職員の一元化(組織化)が全国的に広まってきていること。
 今後、予算の繰越が可能になること。
 文科省の最新の取り組み。
 自分だけでは調べきれない昔から現在に至るまでの情報。
 コアファシリティ採択校の技術力向上のためのプログラム構築に関する情報。
 コアファシリティ採択理由。
 技術部の全学的な組織化に伴う課題や問題点等に関わる情報。
 名工大玉岡さんの技術職員の待遇改善に関する過去の流れ。
 技術職員のキャリアパス。
 組織化後の中堅職員の育て方、興味のない人たちの説得等。

得られた情報はあったか



設備等共用化事業採択など。
 東工大の新しい技術職員制度。
 江端先生の講演内容全般。
 組織としての研究支援のあり方。
 「リユース」に対する捉え方、各大学のリソースを活かすこと等。
 技術専門職員制度について。

次期開催校の希望・開催形式

□希望したいが、不安と回答した理由

技術部内でのスタッフのやりくり、大学側からの開催許可、所属長の許可が得られない可能性が高い。

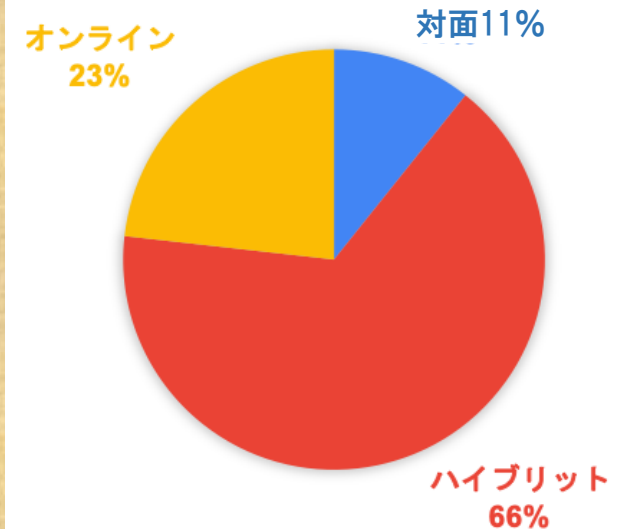
オンラインで開催する場合には権限がない。

会議の趣旨を学内のすべての技術職員が理解するには、時間がかかる。

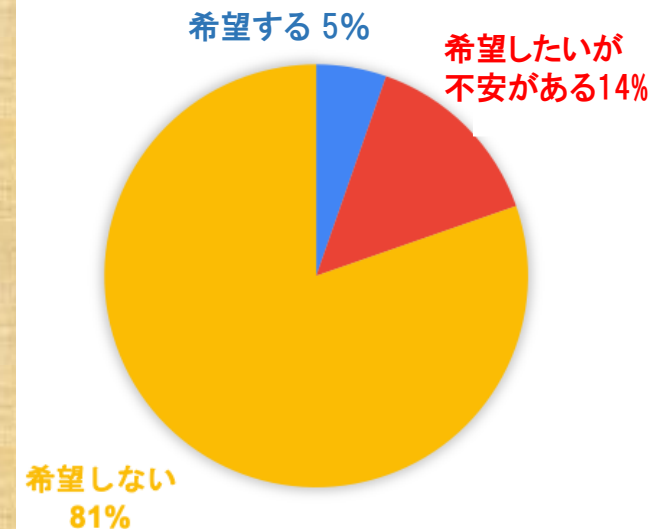
総合技術部が設立して3年目ですが、まだまだ移行期で総合技術部に対する考え方は各技術職員それぞれで温度差があること。そもそも私は管理職ではないので「開催を検討する」権限がないです。「〇〇で開催できたらいいなあ」という希望レベルの話になります。

研究会運営にかかる経費の問題(会場使用料、講師招聘旅費・謝金等)
今回本学で実施したが、すべてを対面で実施すると会場や旅費等の予算確保が可能かどうか、また担当者の業務過多にならないか懸念がある。

次回の開催形式



開催校を希望するか



自身の組織運営での工夫

活性化のため、定期的なミーティングや企画の提案を行っている。
技術組織が必須ではないかと大学へ提案中。
採用試験へ実技を導入。
理工学部以外の組織への技術サポート。
技術部内での研修カリキュラムの充実化。
コロナ禍対応でオンライン会議のやり方を工夫している。
今年度、全学の技術部から研究助成(最大10万)が実施された。
各班との連携、情報共有。
技術職員の学内評価制度の構築。
対面コミュニケーション。
若手に話を振る。
教員・事務部・関心がうすそうな技術職員を含む検討の場を実現させる工夫の検討。
技術力向上と、それを人事評価に反映させる取り組み。
密な情報共有で業務の改善。
役割分担による職員の意識改革の推進。
実力性のキャリアパス制度新設。
技術職員の連携、組織化に関してのコンセンサスを得る努力。
定期的なミーティング、情報共有アプリ等の導入で情報共有化。
やりたいという意見を否定しないこと。
UTAの設置、若手との対話。
少数意見を大切にするため、相談しやすい職場環境の構築。

第4回 大学技術職員組織研究会（琉球会議）

— ま と め —

技術職員の、組織化とキャリアパスをテーマに琉球会議を計画。当初、5月の予定はコロナウイルス感染拡大で9月に延期後、さらに12月18日へ変更し無事開催されました。ご協力いただいた、関係者の皆様へ心から感謝いたします。

技術職員の職務内容は、実に多様で組織や立場も様々な違いがあります。信頼のおける仲間であっても、評価やキャリアパス、組織化の話題は直ぐには話し辛いものです。しかし、コロナ禍における唯一の利点はオンラインミーティングが普及し、全国の技術職員が共に情報共有できる環境が構築された事だと思います。

これからも、大学技術職員組織研究会のコミュニティーを活用し、大学の研究教育を推進するため全国の仲間と、さらなる連携が実現できれば幸いです。